

<全体分析>

試験時間 150 分

解答問題数 5 題

解答形式

記述形式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

昨年は数学Ⅲからの出題が1題(極限と接線のみ)だったが、今年度は5題中2題数学Ⅲより出題された。

その他トピックス

複素数平面が3年連続で出題されていない

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	確率	A	カードの取り出しに関する確率	易
[2]	図形と方程式 平面ベクトル	Ⅱ B	直線に関する対称点、2直線の交点	標準
[3]	空間ベクトル	B	正八面体、三角形の面積の最小値	やや易
[4]	指数・対数 数列の極限	Ⅱ Ⅲ	無限級数、はさみうちの原理	標準
[5]	微分法・積分法	Ⅲ	関数のグラフ、方程式の解の個数、面積	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

まず全分野にわたり基本を身に付けたうえで、融合問題に取り組んでおこう。
計算量の多い問題にも対応できる計算力を養っておこう。